

23 社会福祉法人 基督教児童福祉会

所在地 ▶ 東京都町田市下小山田町2745-1 URL ▶ <http://www.bott-home.org/>

子育て広場・いっぽいっぽ



実施期間

令和2年4月1日～令和5年3月31日

助成額

令和2年度：836,000円
(建物改修費、備品等購入費、賃金、消耗品費、役務費)

事業概要

- 地域の子育て家庭に対して、孤立化を予防するために、子育てに関する課題を抱える保護者と時間を共有し、共に考えていくことを通して信頼関係を構築し、子育てに対して前向きにとらえていく力を高めていくことを支援する。
- 事業内容は以下のとおり。
 - 対象：地域に暮らす乳幼児のいる子育て世帯
 - 取り組み内容
 - ①児童養護施設の空き居室の一部を借りて、子育て広場「いっぽいっぽ」を週3回開催する。
 - ②専任のスタッフを置き、子どものプログラムとして、手遊び、絵本の読み聞かせ、パネルシアターなど保護者と子どもと触れ合う時間を作る。
 - ③親支援として個別相談を受ける。
 - ④「つながり」を持つことを目的として、月4回ランチの無料提供を行う。
 - ⑤社会的養護を必要とする子どもに対する養育の専門機関であり、本事業を利用する家庭に何らかの問題が生じた際には、法人の機能を最大限に生かし対処する。

成果目標・事業計画

【成果目標】

- 参加者の安定した参加及び新規の参加者がその後も継続して参加すること
- 利用した保護者が自己肯定感を持ち、自信をもって主体的に子育てができるようになること
- ランチを無料提供することにより、食事を通して人と人とのつながりを持つ機会を提供すること
- 適切な関わりをすることで、保護者を虐待に追い込まないようにする。「孤立感」を解消するための保護者の居場所を作る。ありのままの保護者を受け入れることによって保護者の「自己肯定感」を高める。

【事業計画】

- 令和2年12月
 - 法人施設内改修工事終了
 - 非常勤、専任スタッフの募集
 - チラシ配布
- 令和3年1月～3月
 - 備品購入、整備
 - プレ子育てひろばの開催
(毎週1回10時～12時半、月に1回ランチ提供、親子5組)
- 令和3年4月～令和5年3月
 - 子育てひろばの開催

(毎週3回10時～15時、毎週1回ランチ提供、親子8組)

- 年に6回、母親のみの講座開催
- クリスマスにイベント開催(親子12組)

実施状況・成果

【実施状況】〈令和2年度実績〉

- プレ子育てひろばの開催
(令和2年5月～令和3年3月)
 - 38回開催、延べ109家庭が参加
(参加した子どもの内訳：0歳22名、1歳102名、2歳28名、3歳3名、4歳5名、5歳以上5名、延べ165名)
 - 親子ふれあい遊びとして手遊び等を導入し、絵本の読み聞かせも行った。
- ふらっとサロン(保育付きの親だけのサロン)「ママたちのしゃべり場」
 - 2回開催、9名参加
 - 「ママでもない妻でもない自分自身を見つける時間がありますか?」というテーマで自分が思っていることを話したり、他人の話を聴いたりする時間を持った。
- ランチ会の開催(6月～12月)
 - 7回開催、延べ20家庭(延べ48名)参加
 - 緊急事態宣言が解除されてから、感染対策をとって開催した。
 - 子どもたちもみんなと一緒に食べると、普段食べないものも食べることにつながり母親も喜んでいた。「誰かが子どもたちを見てくれるのでゆっくりと食べることができ、それだけでも嬉しい」との声が聞かれた。

【成果】

- コロナ禍で行き場を失った多子家庭の母親から気持ちが閉塞してしまうというメールが入ったことをきっかけに、感染対策をとりながらひろばを再開、休まず開催した。「ひろばに行けることを励みに、またみんなと会うことで元気をいただく」「親までサポートしてくれるところは少ないから親子にとっては憩いの場です」「子どもの朝の状態で行かれないこともあるが、そこにスタッフの人がいてくれると思うだけでホッとできるし救われる」等の感想があった。
- 継続して参加される親子が多いため仲間意識が芽生え、「来年度はクッキーづくりをしたい」と主体的な気持ちも出てきた。継続して参加している子どもの成長を、親と一緒にスタッフも喜ぶことができています。1月以降参加者みんなで子どもの誕生日を祝うひと時も持った。
- 顔見知りになることで、お互いが支えあう関係も作られつつある。

課題と対応

- 新型コロナウイルス感染症の不安で、ひろばに来ることを躊躇する親子も多かった。また、予定をして

パト博士記念ホーム 子育てひろば
いっぽいっぽ

こんにちは！パト博士記念ホームで開かれている子育てひろば「いっぽいっぽ」です。地域の子育て中の親子が気軽に遊びに来られるような居場所を目指しています。皆さんのお越しをお待ちしております！

オープンカレンダー 毎週金曜日(月4回) 10:00～12:30

9月	10月	11月
4日(金) あっぷがタイム 自由遊び	2日(金) ふらっとサロン	6日(金) あっぷがタイム (手遊びと親子ふれあい遊び)
11日(金) 絵本の読み聞かせ ママのカフェタイム	9日(金) あっぷがタイム 自由遊び	13日(金) 自由遊び 絵本の読み聞かせ
18日(金) も親子で一緒に作ろう！工作デー	16日(金) 絵本の読み聞かせ ママのカフェタイム	20日(金) ママのカフェタイム
25日(金) みんなでランチ 9月生まれのお祝い	23日(金) みんなでランチ 10月生まれのお祝い	27日(金) みんなでランチ 11月生まれのお祝い

第4週目は
みんなでランチ

毎月最終日はみんなでわいわいランチタイム！パンと飲み物の簡単な昼食を用意します。(無料です)
お子さんのお食事は持参してください。

10月の
ふらっとサロン

ママでも妻でもない自分自身を見つける時間がありますか？町田市でママ達のしゃべり場を開催していた辻野恵子さんを迎えて、普段思っていることを話したり、参加者のお話を聞いたりする場所です。つづきもよし、聞かなくて参加もよし、お茶を飲みながらのママの自分をエンジョイしましょう。
※お子さんの保育あり、安心してゆっくりできます。

〒194-0202 東京都町田市下小山田町 2745-1 (駐車場あり)
パト博士記念ホーム 042-797-1371 (担当:平本・吉澤)

乗換や送迎など体調不良がある場合は、利用できません。保護者の方のマスク着用と当日の検温、体調の管理をお願いします。

いたプログラム(ランチ会・親子触れ合い遊び・クリスマスイベント等)も中止になってしまうなど活動を縮小せざるを得なかった。

- 来ることのできない親子が孤立しないように、手紙やメールでつながっていることを伝えた。感染予防対策については、検温(スタッフ、親子)・手洗い・マスク着用(大人)・換気等をし、おもちゃなどの消毒も毎回行った。今後も安心して安全に利用できるように、看護師(スタッフ)と相談しながら感染予防対策を行う。非常事態宣言が解除されたら、感染予防に気を付けランチ会や親子ふれあい遊びなどの再開を考えている。

～団体にとっての効果～

- 地域への広報についてはまだ不十分だが、法人の他の事業(ショートステイ・ホームスタート・里親等)にも広報をし、ショートステイを利用している子ども、ホームスタートを利用している親子、里親家庭も参加している。施設出身で子育てをしている親も参加している。
- 里親家庭の参加により、里親に興味のある家庭とのつながりを持つこともできた。
- 参加している親にとって他の事業も利用できることを知り、子育てサポートが広がった。
- 新しい部屋に移り、新たに助成金で購入したおもちゃで遊びの幅が広がりつつある。

24 特定非営利活動法人 子育てネットワーク・ピッコロ

Childcare Network
PICCOLO

所在地 ▶ 東京都清瀬市元町2-18-10 URL ▶ <https://www.piccolonet.org/>

家庭訪問型子育て支援ヒヤリ・ハット 検証からの実践ツール作成と研修開発



実施期間

令和2年10月1日～令和5年3月31日

助成額

令和2年度：962,000円

(備品等購入費、賃金、報償費、旅費、消耗品費、役務費、使用料・賃借料)

事業概要

- 「ヒヤリ・ハット」事例分析・検証により、家庭訪問型子育て支援の指針を導き、事業者任せの実状から自治体と共に「安全・安心な支援」の実施を目指し、地域の子育て支援のマインドを身につけた育成を目指す。
 - ・分析チームの立ち上げ（専門家含む）と検討委員会の開催
 - ・事例の選別および分析と指針の提案
- 「見て・学ぶ」家庭訪問型子育て支援に特化した研修を提案するために、実践ガイドブックと映像での実践ツール（MPEG-4）を作成し、62市区町村全ての子育て家庭への支援と、地域の子育て支援の強化を図る。デジタルデータとして作成された研修内容は、個別でも集合研修でも学べる機会が得られ、今後の新型コロナウイルス禍の中でも研修の実施が可能になることを目指す。
 - ・家庭訪問型支援の育児・家事支援の留意点とポイントの提示
 - ・支援者及び利用者親子の協力のもと制作会社に依頼する。
- 家庭訪問型に特化した実践ツールを使用したモデル研修の実施と評価
 - 作成したツールを活用した、家庭訪問型子育て支援

に特化した支援者研修の内容を提案していく。自団体でのモデル研修の実施と評価を行った上で、都内で活動する団体や自治体の支援にもツールを活用してもらい、MPEG-4データにより、集合研修が難しい場合でも個別に学べることを目指す。

- ・分析チームを含めた検討委員会の開催
- ・自治体支援者対象の研修実施と評価
- ・都内市区町村対象にツールを使用した研修の実施と提案

成果目標・事業計画

【成果目標】

- 「ヒヤリ・ハット」事例の分析・検証
 - ヒヤリ・ハット事例を分析することにより、実践ガイドブック作成等に役立てる。
- 支援者向け実践ガイドブック及び映像での実践ツール（MPEG-4）の作成
 - ・実践ガイドブック200部作成
 - ・映像での実践ツール（MPEG-4）の作成
 - ・デジタルデータとして作成することにより、個別・集合研修両方の実施が可能となる。
- 家庭訪問型に特化した実践ツールを使用したモデル研修の実施と評価
 - ・2年目：自団体でのモデル研修の実施（参加者延べ60名）

- ・3年目：研修—23区版及び多摩地区版の実施
- ・都内で訪問支援を行う団体や行政事業者を対象にツールを活用した研修を計4回実施
- ・都内62市区町村等に案内、ファミリー・サポート提供会員17,466名を対象に広報活動

【事業計画】

〈令和2年度〉

- ・ヒヤリ・ハット事例の選別（令和2年10月）
- ・検討委員会の選出の承認（令和2年12月）
- ・検討委員会の開催（令和2年12月から月1回程度開催）
- ・支援者へのヒヤリング実施（令和3年1月から3月）

〈令和3年度〉

- ・実践ガイドブック原稿確認・デザイン、印刷（令和3年7月）
- ・映像での実践ツール（MPEG-4）作成（令和3年8月）
- ・モデル研修の実施（令和4年2月）

〈令和4年度〉

- ・都内研修のための広報活動及び準備（令和4年5月）
- ・研修-23区版の実施（令和4年9月）
- ・研修-多摩地区版の実施（令和4年11月）
- ・報告会の開催（令和5年2月）

実施状況・成果

【実施状況】〈令和2年度実績〉

- 検討委員候補に事業を説明
- 検討委員会の設置、検討委員会の開催
 - ・第1回検討委員会（12月11日）
 - ・第2回検討委員会（1月29日）
 - ・第3回検討委員会（3月5日）
- ヒヤリ・ハット事例の選別（10月から12月）

平成26年度からの自団体個人保育報告書、ひとり親ホームヘルプサービス事業・養育支援訪問事業報告書およびヒヤリ・ハット報告書を対象に自団体コーディネーターと事務実施アルバイトが読み返し選別作業と分類を行った。

【成果】

- 検討委員会の実施により、委員から専門的な意見が出され、分析しやすい仕分けシートができた。
- ヒヤリ・ハット事例分析・検証により、支援のマイルドを身に付けた支援者の育成が可能となった。



ハイブリッド会議の検討委員会

NPO法人 子育てネットワーク・ピッコロ

ヒヤリ・ハット レポート

受付担当 ()
受付日 年 月 日 ()

このレポートは、あなたが経験した事故につながる可能性について書いていただき、同じ提供会員の皆さんに役立つ情報を集めるためのものです。気軽に情報をお寄せください。なお、このレポートは個人のマイナスイメージ、責任追及に使われることはありません。情報として個人名を出すことはありません。あなたの「ヒヤリ」や「はっ」とした出来事について教えてください。

事業名	()
活動内容	()
発生した日時	(西暦) 年 月 日 () 時 分
報告者名	(氏名)
発生した場所	<input type="checkbox"/> 屋内 <input type="checkbox"/> 提供会員宅 <input type="checkbox"/> 依頼会員宅 <input type="checkbox"/> 学校・保育園等 <input type="checkbox"/> 団体保育室 () <small>具体的に： <input type="checkbox"/> 居室 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 洗面所 <input type="checkbox"/> 浴室 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 階段 <input type="checkbox"/> エレベーター</small> <input type="checkbox"/> 庭 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 屋外 <input type="checkbox"/> 路上 <input type="checkbox"/> 公園 <input type="checkbox"/> その他屋外 () <input type="checkbox"/> その他 () <small>(具体的に：)</small>
対象児	(フリガナ) 歳 月 日 () (氏名) 歳 月 日 () 性別 <input type="checkbox"/> 男児 <input type="checkbox"/> 女児
出来事の種類	事故： <input type="checkbox"/> ケガや病気になった (<input type="checkbox"/> 治療が必要になった <input type="checkbox"/> 生命の危険があった) ヒヤリ・ハット： <input type="checkbox"/> ケガや病気になる可能性があった <input type="checkbox"/> 会員に損失を与えた <input type="checkbox"/> 会員の信頼を損なった
発生時の行動	<input type="checkbox"/> 保育中 <input type="checkbox"/> 移動中・送迎中 <input type="checkbox"/> 遊戯 <input type="checkbox"/> 入室・引渡 <input type="checkbox"/> 散歩 <input type="checkbox"/> 食事中 <input type="checkbox"/> 睡眠中 <input type="checkbox"/> その他 ()
ヒヤリ・ハットに関する要因 (複数選択)	<input type="checkbox"/> 転倒 <input type="checkbox"/> 転落 <input type="checkbox"/> 誤飲 () <input type="checkbox"/> アレルギー () <input type="checkbox"/> 紛失 <input type="checkbox"/> 物損 <input type="checkbox"/> 体調の急変 <input type="checkbox"/> 発熱 <input type="checkbox"/> 嘔吐 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 投資関係 () <input type="checkbox"/> 整備不良・故障 () <input type="checkbox"/> 食事関係 () <input type="checkbox"/> 選別 <input type="checkbox"/> 保育忘れ <input type="checkbox"/> 保育内容でのトラブル <input type="checkbox"/> 保育料でのトラブル <input type="checkbox"/> 保護者からの苦情 () <input type="checkbox"/> 子どもの不安全な行動 () <input type="checkbox"/> 非常時での対応 () <input type="checkbox"/> その他 ()
第一報告	<input type="checkbox"/> ピッコロコーディネーター <input type="checkbox"/> ファミサポアドバイザー <input type="checkbox"/> つとめ責任者 <input type="checkbox"/> その他 報告日時：(西暦) 年 月 日 () 時 分

(発生した出来事の詳細、経過報告、再発防止等の自由意見をお書きください)

(スペースが足りない場合は裏面にお書きください)

課題と対応

- 「見て・学ぶ」家庭訪問型子育て支援に特化した研修を提案するために、実践ガイドブックと映像での実践オンラインツールの開発を進めている。デジタルデータとして作成された研修内容は、コロナ禍にあっても個別や集合研修など、様々なかたちで支援者に学ぶ機会を提供することを目指す。

～団体にとっての効果～

- 検討委員会の実施により、委員から専門的な意見が出され、分析しやすい「ヒヤリ・ハット仕分けシート」が完成した。また、ヒヤリ・ハット事例における「重大度の定義」を定め、◎、○、△の三段階で分類することができた。
- 支援者から提出された「ヒヤリ・ハットレポート」のみならず、過去3年間における、家庭訪問型子育て支援の「援助活動報告書」を読み返すことにより、新たな課題に気づかされ、対策に当たることができた。

25 特定非営利活動法人 子育てパレット

所在地 ▶ 東京都足立区梅島3-4-8-203 URL ▶ <https://kosodatepalette.jimdo.com/>

産前産後サポートプログラム 「リアさぽさん」



実施期間

令和2年11月1日～令和5年3月31日

助成額

令和2年度：124,000円
(賃金、消耗品費)

事業概要

- 子育て当事者（ママ）がひとりで抱え込まず、人に頼る子育てを産前産後から実践し、「産みやすい・育てやすい地域社会」の仕組みをつくる。
- 産前において、産後にできるだけスムーズに子育てに取り組めるような下準備、ママのサポート体制・家族（夫）の協力の仕方、地域のつながり先が把握できるプログラムを推進し、ママ自身や家族の養育力を高めるサポートをする。
- 産後1年くらいまでの広い視野で、産後のホルモンバランスの崩れ、思うように子育てや家事ができない、上の子にイライラする等のママそしてその家族のストレス軽減、養育力を高めるサポートをする。
- 事業内容は以下のとおり。
 - 対象
 - ①産前産後（産前・誕生～1歳を重点的に）ママ、パパ
 - ②プログラム波及効果を図るためプログラム推進者を育成
 - 提供するサービス内容
 - ①産前：産前準備クラス・アイナロハ直伝「パパ

ニティクラス（両親学級）」を開催

- ②産後：さよならイライラ育児®講座・パパニティクラス（両親学級）・パパNP（「完璧な親なんていない」のパパ版）講座、助産師中心のつながる子育て（助産師相談・交流・地域情報収集）講座を開催
- ③講師養成
講座をひとつのメソッドとして講師を養成、サポートブック（冊子）を各専門家の力を借りて作成、産前産後サポートの輪を身近なものとして東京全体に波及する。

成果目標・事業計画

【成果目標】

- 活動拠点である足立区を基盤とし、東東京にプログラムを波及する。
- 東京中央部／西東京の2つの核となる推進舞台を作る。

【事業計画】

- 令和2年度
 - 「さよならイライラ育児®」講師養成講座のテキスト・オンライン講座開発

- 産前準備・つながる子育ての内容精査
- 令和3年度
 - 産前準備クラス講師養成講座・テキスト開発
 - 産前産後ママ・パパ対象講座の開催（計14回）
 - ①産前準備クラス：年2回
 - ②さよならイライラ育児®：年2回
 - ③助産師子育てつながる講座：年6回
 - ④パパニティ講座：年3回
 - ⑤ご飯つきパパのNP講座：1シリーズ6日間1回開催
 - 「さよならイライラ育児®」「産前準備クラス」講師養成開始（計4回）
 - 仮称：産前産後サポートブック（冊子）の内容検討
- 令和4年度
 - 産前産後ママ・パパ対象講座の開催（計12回）
 - 月1回ペースでプログラムメソッド（産前準備・さよならイライラ育児®・つながる子育て）を開催※必要に応じて保育付
 - 産前産後サポートプログラムメソッド講師養成（計8回）
 - 3ヵ月に1回（産前産後準備とさよならイライラ育児®2コマ）
 - 仮称「産前産後必要サポートブック」（冊子）制作・完成

実施状況・成果

【実施状況】〈令和2年度実績〉

- プログラムの中心となる「さよならイライラ育児®」講師養成講座のテキスト・オンライン講座を開発
 - 内容トピックスの検討および精査、オンライン配信の勉強およびスキル習得、チャンネル作成、機器操作の練習（～令和2年12月）
 - トピックス出し、構成案作成、資料化（令和3年1月～3月）
- 産前産後&つながる子育ての内容精査
 - 内容案出しおよび精査、助産師との打ち合わせ
つながる子育ての中で漏れた部分を産前準備クラスに盛り込んだ。（～令和2年12月）
 - 具体的な構成案の作成（令和3年1月～3月）
- 募集内容および告知計画の検討
 - 子育て応援フリーペーパー「カラフル」、SNS、活動拠点での告知、他事業からの集客等媒体と告知方法を選定した。（令和3年3月）

【成果】

- YouTube配信の仕組みやスキルを学び、実際に別コンテンツではあるがテスト配信もして方法を確認することができた。



- 「さよならイライラ育児®」の内容検討、「産前準備クラス」「つながる子育て」の方向性を専門家（助産師）と打ち合わせる中で、ママを取り巻く環境や現状のニーズを再確認し、講座に反映できる手応えを感じることができた。

課題と対応

○【産前準備クラス】

忙しく働くプレママに特に届けたいという思いがあるが、参加者をどれくらい集められるかが課題。法人として長年子育て支援をしてきて、本当に大事なのが産前だと思っている。コロナ禍で母親学級や両親学級はオンライン開催で友達を作りにくい状況のため、法人の産前準備クラスはオンラインであっても参加者との対話を重視した内容としたい。オンラインのメリットとして、検索してくれる人が増えるのではないかとことも期待している。

～団体にとっての効果～

- 自治体からの委託で6月より法人内の別事業として産後ケア事業を開始。その中で分かった産後ママの実態をプログラムに限りなく反映させることができた。
- 現場で産前産後ママの対応をしている助産師さんからのターゲットニーズを知ることができた。

26 特定非営利活動法人 ダイバーシティコミュ

所在地 ▶ 東京都立川市錦町1-4-4 サニービル2F URL ▶ <http://tsunagarugohan.com/>

多様な子育て環境のための【食】を通じて 支援する「ピアサポート」親子食堂



実施期間

令和2年10月1日～令和5年3月31日

助成額

令和2年度：1,195,000円

(ホームページ開設費、賃金、報償費、消耗品費、印刷製本費、役務費、使用料・賃借料)

事業概要

- 多様な理由で困難を抱える家庭が地域に多くみられ、いわゆる一般家庭や定型発達児との環境や悩み事の違いにそれぞれが困惑し、育児をする上で多くの不安を抱えている。そこで、子育て中には楽しみでもあり、悩みの原因ともなる【食】を通じて、共感しあえる仲間との出会いの提供にもなるピアサポート活動を行いたく、「ピアサポート親子食堂」を1ヵ月に2回程度開催する。
- 各親子食堂では、①セミナーや講演会で情報提供を行い、その後各グループにあった②食の提供、③ピアサポートによる交流会を実施する。提供メニューやセミナー、講演会の具体的な内容は、地域におけるそれぞれのピアサポート支援団体に協力を仰ぎ、事前に調査および相談する。提供メニューは現役の保育園給食スタッフ（調理師・保育士）がそれぞれの児童や家庭環境に沿ったメニューを考案、調理し、提供する。セミナーや講演会中は必要であれば別室保育付きで、保護者にゆったりとした時間を提供し子育て負担も軽減する。
- 【食】をテーマにしたピアサポート親子食堂の対象グループは以下のとおり。
 - ①発達障害児 親子ピアサポート食堂（土日昼、3ヵ月に1回程度）

味覚・感覚過敏で食にこだわりを持つことが多い発達障害児。食べないことに悩みを持つ保護者に、様々なケースを意識したメニューを提供。

- ②食物アレルギー児 親子ピアサポート食堂（平日昼、3ヵ月に1回程度）
アレルギー代替食などを活用し、足りない栄養素を考慮したメニュー、アレルギー児が楽しめるメニューを提供する。
- ③多胎児 親子ピアサポート食堂（平日昼、3ヵ月に1回程度）
時間や手が足りない多胎児育児中の親にとって、双子に同時に食べさせやすいメニュー、時短料理や簡単作り置きメニューを提供。
- ④ひとり親家庭 親子ピアサポート食堂（土日昼、3ヵ月に1回程度）
時間や手が足りないひとり親にとって、時短料理や簡単作り置きメニュー、後片付けラク料理法やリメイク料理などのメニューとレシピの提供。
- ⑤未就園児 親子ピアサポート食堂（平日昼、3ヵ月に1回程度）
転勤で引っ越してきたばかり、近くの地域に両親、親戚、知人がいない、はじめての育児で不安がいっぱいなどの理由で、孤立・孤育てにならないよう地域の情報交換ができる場と、添加物を使用せず、安全安心なメニューを提供。

⑥地域の多世代交流食堂（平日夜、3ヵ月に1回程度）高齢者や貧困家庭、保育園帰りの親子など、地域の誰でもが参加できる食堂を開催し、地域でのつながりの提供、見守りの役割を果たす。また、多様な家庭環境、児童への育児中ではない世代の理解促進を促す。

※新型コロナウイルスの状況に応じては、オンライン講座およびテイクアウトでの食事の提供などに支援方法を変更する。



成果目標・事業計画

【成果目標】

- ピアサポート食堂の年間開催回数、利用者数
 - 令和2年度：8回、160名
(10組 [親子20人] × 2回 × 4ヶ月)
 - 令和3年度：24回、480名
(10組 [親子20人] × 2回 × 12ヶ月)
 - 令和4年度：24回、480名
(10組 [親子20人] × 2回 × 12ヶ月)
- ホームページで情報提供、活動報告をすることでアクセス数をあげる。
- 参加者に対するアンケート：「参加してよかった」の回答が全体の80%以上を目標
- 各種支援団体へのメンバー加入

【事業計画】

- 事業スケジュール
 - 令和2年10月
ホームページおよびチラシ制作、広報開始、各種支援団体と打合せ（セミナー、メニューの考案）、ボランティア受付
 - 令和2年11月
広報活動（SNS更新、チラシ配布）、各種支援団体打合せ
 - 令和2年12月～令和5年3月
 - ①ピアサポート食堂開催
(平日午前午後2回・土日1回) / 月開催
 - ②広報、各種支援団体打合せ
- 実施場所：立川市保育園、レンタルスペース、ふれあいセンター、商店街協力店舗
- 参加人数：参加者10組（親子20人程度）+ピアサポーター3名程度/回

実施状況・成果

【実施状況】〈令和2年度実績〉

- 親子食堂イベントの実施
 - 12月8日：未就園児親子を対象にCsTACHIKAWAにて開催（8組参加）
 - 12月17日：多胎児親子を対象に武蔵村山市緑が丘ふれあいセンターにて開催（3組参加）
 - 1月19日：食物アレルギー児親子を対象にCsTACHIKAWAにて開催（1組参加）
 - 1月26日：地域多世代を対象にCsTACHIKAWAにて開催（71名参加）

- 2月18日：発達障害児親子を対象に武蔵村山市緑が丘ふれあいセンターにて開催（2組参加）
- 2月21日：ひとり親親子を対象に武蔵村山市緑が丘ふれあいセンターにて開催（8組参加）
- 3月6日：多胎児親子を対象に武蔵村山市緑が丘ふれあいセンターにて開催（3組参加）
- 3月20日：未就園児親子を対象にABCハウジングハウジングワールド立川のモデルハウス「クレバリーホーム」にて開催（8組参加）
- 広報および普及活動
 - WEBサイトを開設し告知。立川経済新聞に記事広告掲載。（11月）
 - 立川市社会福祉協議会の広報誌掲載（令和3年2月）
 - 立川経済新聞バナー広告（令和3年3月）
 - 各月のイベントごとにWEB告知、チラシを4回作成し配布した。

【成果】

- 各カテゴリにおいて地域で活動する団体を招き、講習会やワークショップのあと座談会を開催することで、情報共有や特殊な状況下でのノウハウを付与した。コロナ禍で食事は持ち帰りとなったが、調理スタッフがレシピを配布し、時短や栄養面、節約方法などのアドバイスをした。

課題と対応

- 参加組数をもっと増やすため、広告、広報活動など対象親子へ開催情報を届ける手段を広げていきたい。
- 協力企業の開拓もし、より協力団体を増やして、対象の育児中の方だけでなく、一般の方々へ広くこの活動を認知させたい。

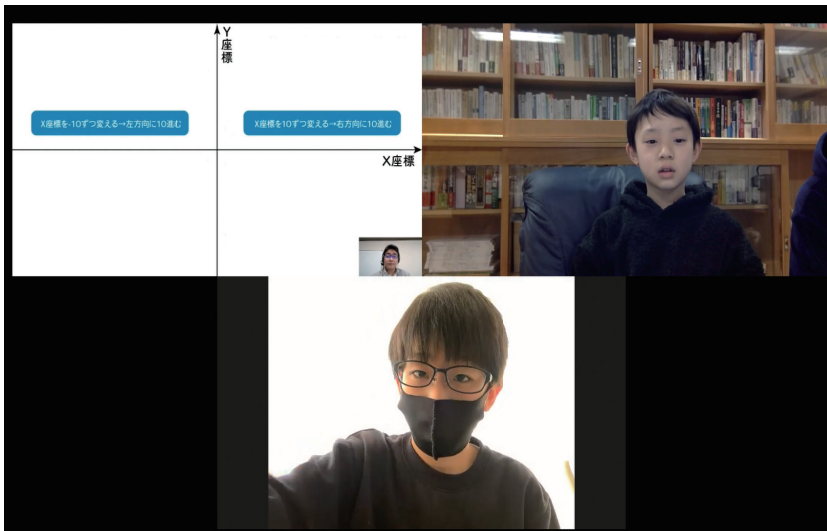
～団体にとっての効果～

- 立川および武蔵村山地域の子育て中の親への認知シェアが拡大した。
- 地域の子育て支援団体がピアサポーターとして関わることで、他団体との連携が強化された。
- 未就園児や多胎児に特化した団体と関わり、課題や置かれている状況、ニーズを確認できた。他団体を通じた告知を行うことで、当該団体の認知度が高まった。
- フードバンクTAMAや地元企業、商店街から寄付品をいただき参加者にギフトとして配布した。連携団体と意識共有を図ることができた。

27 特定非営利活動法人 いけぶくろ大明 共同提案法人：特定非営利活動法人 SLC

いけぶくろ大明所在地 ▶ 東京都豊島区池袋3-30-8 URL ▶ <http://www.toshima.ne.jp/~taimei/>
SLC所在地 ▶ 長野県伊那市野底7712番地6 URL ▶ <https://www.facebook.com/slcjp/>

ミニ東京・こどもタウン



実施期間

令和2年10月1日～令和5年3月31日

助成額

令和2年度：1,800,000円
(賃金、報償費、消耗品費、委託費)

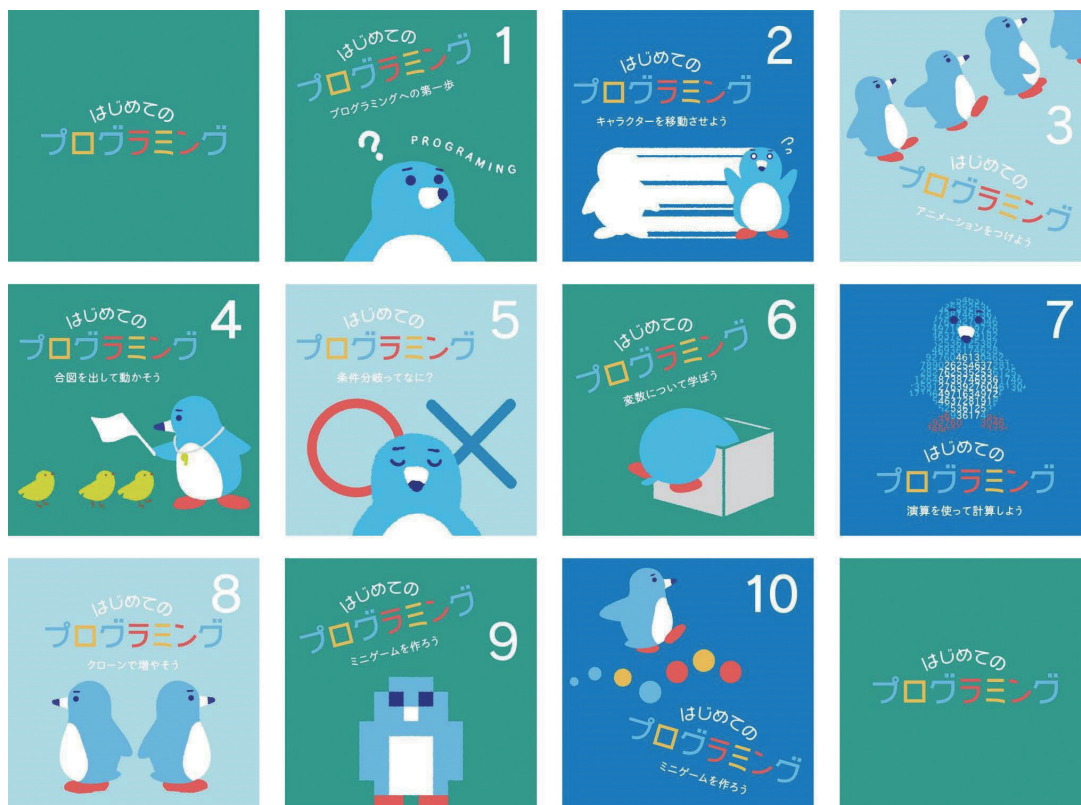
事業概要

- 経済状況及び家庭環境等に関係なく、高度な学習カリキュラムと学習を社会で活用することで、自分の力で学びを継続することができる仕組みを構築する。将来の経済的な自立を促進し、将来安心して家庭を築けるよう支援を行い、本仕組みにより家庭の経済的な負担を軽減する。
- 主な事業内容は以下のとおり
 - ・クエスト（職業体験）
商店街や企業等からクエストを依頼していただき、受講生は講座の学びを活用しクエストに取り組み、達成すると専用通貨を受け取ることができる。専用通貨は、下記講座の受講や将来的には地域通貨化し提携団体での使用を可能にする。
 - ・探求講座
様々な体験学習やマイプロジェクト等を通じて、自分の興味関心領域や得意不得意等を理解し、自分の軸を定めていく。
 - ・探究講座
クエストに必要な知識・技能を取得するための講座を開講する。大学の教職員や地域住民及び企業人材等が講師や講座の監修を努める。

成果目標・事業計画

【成果目標】

- 講座開発数
 - 令和2年度：20講座（同期10・非同期10）
 - 令和3年度：45講座（同期20・非同期25）
 - 令和4年度：55講座（同期25・非同期30）
- 講座開講数
 - 令和2年度：同期24コマ
 - 令和3年度：同期96コマ
 - 令和4年度：同期192コマ・非同期36コマ
- 利用者数（延べ利用者数）
 - 令和2年度：10名（240名）
 - 令和3年度：10名（960名）
 - 令和4年度：10名（2,280名）
- クエスト提供個人団体数
 - 令和2年度：5名
 - 令和3年度：20名、5団体
 - 令和4年度：40名、10団体
- クエスト実施人数
 - 令和2年度：50名
 - 令和3年度：450名
 - 令和4年度：900名



※同 期：講師と参加者がオンライン上で対面し行う授業

※非同期：講師が準備したオンライン上の動画や資料などにアクセスし、それを基に学びを進めていく授業

○利用者アンケート

本事業の参加前後で自己肯定感が向上した割合：90%

今後も子どもに関連する地域貢献活動を継続したいと回答する割合：90%

○専用通貨利用率

専用通貨を使用した受講者数が受講生全体の20%

【事業計画】

○令和2年10月～12月

講座の開発、クエスト団体等の募集準備、映像授業及びオンライン授業実施準備

○令和3年1月～3月

非同期型・同期型講座開発、オンライン講座の開講、クエストの実施

○令和3年4月以降

講座の開発、オンライン講座の開講、非同期型講座の開講、クエスト実施

実施状況・成果

【実施状況】〈令和2年度実績〉

○講座開発数：20講座（同期10・非同期10）

○講座受講者数（延べ利用者数）：75名（同期45名・非同期30名）

○クエスト実施人数：モニター授業25名

○Web上の募集サイト等で開講周知、開講周知用のバナー等を作成

○クエスト実施及びクエスト提供者を募るため、営業資料の作成を行った。また、自治体や町会等との連携のため活動説明を行った。

【成果】

○講座開発に必要なスキル（子どもを飽きさせない間の取り方、しゃべり方等）を持った人材、及び団体と連携を取り、講座開発を行うことが可能となった。

課題と対応

○ヒアリング等を行ったところ、オンラインで実施する授業やワークショップは、参加者の保護者の負担が対面で実施するものよりも増えることから、参加へのハードルが高まる傾向があった。今後、授業やワークショップの実施時間を短縮する・映像授業を充実させる・感染防止対策を十分に（消毒や喚起の徹底・少人数開催等）行った形での対面授業の実施も検討する等の対応を行う。

～団体にとっての効果～

●本助成金を活用し、映像授業やオンライン授業の開発に必要な備品や人材を確保することができ、授業の充実を図ることができた。

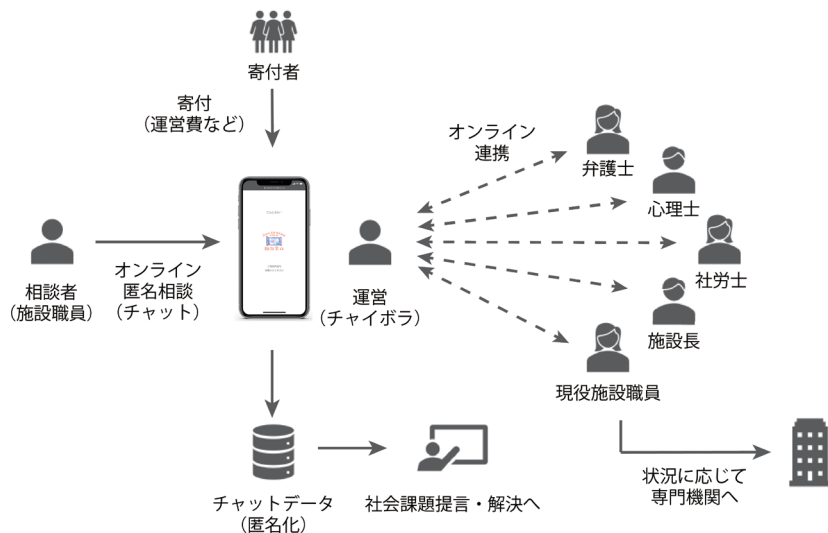
●クエスト及び授業の開発・実施に関して、仮説と検証を繰り返すことができた。これによって、それぞれの仕組みの構築及びその改善を行うことが可能になった。

28 特定非営利活動法人 チャイボラ



所在地 ▶ 東京都豊島区駒込7-3-2鴻森ビル2階 URL ▶ <https://chaibora.org/>

「社会的養護施設職員のための相談窓口」を設置し、職員が安心して働けるサポート体制の確立



実施期間

令和2年7月1日～令和5年3月31日

助成額

令和2年度：1,314,000円
(ホームページ開設費、賃金、役員費、委託費)

事業概要

- 「社会的養護施設職員のための相談窓口」を設置し、職員が安心して働けるサポート体制の確立と持続的な離職率の低下を目指し、子どもの自己肯定感の回復と明るい未来の創出に寄与する。
- 社会的養護業界には専門の相談機関は存在せず、職員の心のゆとりを確保し、子どもへの良質な支援を実現するためのサポート体制が整っていない。その現状に輪をかけて、COVID-19の流行により、職員への身体的・精神的負荷は高まり、サポート体制が整っていない現状では、更なる離職率の悪化が懸念される。
- そのため、既存で運営している社会的養護総合情報サイトチャボナビ (<https://chabonavi.jp/>) という情報ポータルサイトに登録している都内の社会的養護施設に対しオンライン研修会を実施。参加した施設職員に対し窓口の広報を行い活用してもらうことで継続的に勤続できるようサポート体制を構築する。
- 事業内容は以下のとおり。
 - 対象 東京都内の社会的養護施設職員（施設長を含む）
 - 相談窓口体制
 - ・児童養護施設職員の経験者
 - ・顧問：児童養護施設長、弁護士（労務問題、子ども

もの人権問題）、社労士、心理士

●相談内容

- ①ハラスメント（セクハラ、パワハラ、いじめ等）
- ②人間関係
- ③人事労務関係（残業、休日出勤、評価、手続等）
- ④職場環境（分煙、安全管理、危険箇所等）
- ⑤不正、違反（法令、就業規則、業務マニュアル等）
- ⑥問い合わせ（しくみ、プライバシーの保護等）
- ⑦その他（勤務態度、会社の対応、個人の問題等）
- ⑧経営相談（人員配置、マネジメント等）

●窓口の特徴

- ①元児童養護施設職員が窓口に立っていることで、相談者が置かれている状況や心情をより理解できる
- ②社会的養護業界へ理解が深い専門家と連携し、相談に対応できる
- ③電話・対面でなくチャットで気軽に相談できる
- ④完全匿名で無料相談ができる

成果目標・事業計画

【成果目標】

- コロナで疲弊する社会的養護施設（児童養護施設・自立援助ホームなど）の職員向け相談機関を設立し、離職を防ぐ。

〈令和2年度〉

- チャボナビ掲載施設を中心に、都内全域の社会的養護施設経営者向け研修会を開催（年度内に1回以上）。相談窓口の告知を行う。

目標施設数 10施設

目標職員数 500名

（10施設×1施設あたり職員約50名）

【事業計画】

〈令和2年度〉

- 試験運用的に、チャイボラと施設職員で運営を開始した全国社会的養護施設職員のLINEによるオープンチャットを公開。（令和2年7月～8月）
- 社会的養護総合情報サイトチャボナビにて告知を行い、上記オープンチャットによる相談窓口の試験的運用開始。（令和2年9月）
- 相談窓口の体制を完備、アプリ開発。東京都での告知開始（令和2年9月～11月下旬）
- 東京都での運用開始（令和2年12月）
- 5つ以上の児童養護施設および職員へ展開し、パイロット運用を開始。（～令和3年3月）

〈令和3年度〉

- 東京都の約60の児童養護施設のうち、約半数の30の児童養護施設へ展開。（～令和3年12月）

〈令和4年度〉

- 東京都の約60の児童養護施設へ展開（～令和4年12月）

実施状況・成果

【実施状況】〈令和2年度実績〉

- ①経営層に研修内容のニーズ調査
 - チャボナビに掲載している都内児童養護施設48施設、自立援助ホーム5施設、乳児院2施設（計55施設）に対し、アンケート調査を実施
- ②窓口運営体制および研修体制の構築
 - 運営体制メンバー（施設長、施設職員、元施設職員、心理士、弁護士、社労士）によるミーティング（1回）
 - 研修講師（施設長、弁護士、社労士）との定例ミーティング（6回）
- ③窓口アプリ告知カードおよび広報チラシの作成、発送
 - チラシは研修に参加した施設のみに発送するため、簡単なレターに変更した。
- ④チャイボラホームページに研修資料UPのページを作成
 - 実施済の施設長・管理職向け研修会の動画および研修資料を掲載した。
- ⑤チャボナビ掲載の都内社会的養護施設（55施設）に対し研修会の告知
- ⑥チャボナビ登録施設の施設長・管理職向け研修会の実施
 - 1月27日「社会的養護における個人情報保護」（11名参加）
 - 2月24日「変革期における施設運営の展望と制度活用・資源開発」（16名参加）



- 3月24日「労働基準法の全体像とwith/afterコロナ時代の人事労務管理のポイント」（11名参加）
※一般職員向けの研修会は以下のとおり
- 1月27日「社会的養護の子どもたちへの上手な関わり方～原理原則編」（6名参加）
- 2月24日「入所児童のアセスメント 心理検査・児童票の読みとり方」（28名参加）
- 3月26日「子どもが抱える問題に共に向き合うー児童自立支援施設の営みー」（16名参加）
- ⑦相談対応テスト運用の開始（1月18日～）

【成果】

- 研修内容のニーズ調査のためのアンケートを実施し、研修のニーズや各施設の経営層が抱える課題意識、相談が見込まれる問題について把握できた。
- 施設長・管理職員向け研修参加者に相談窓口の概要説明、相談窓口URLおよび告知カードを送付し、各施設職員に対してカード配布を依頼した。

課題と対応

- 相談窓口のQRコードが掲載されているカードの制作が大幅に遅れたため、カードの送付についても遅れが生じた。5月中を目途に発送する。
- 認知が上がらないことが課題。研修に参加した人しか窓口の告知ができない状況なので、今後Googleアドグランツの活用やGoogleアナリティクスの分析等も行いリーチ率を高めるとともに、研修以外の認知拡大ツールも構築する。
- 相談対応に時間がかかってしまうことが課題。相談対応そのものは未経験のメンバーでスタートしているので、今後経験を積みノウハウを蓄積することで対応スピードを上げていく。

～団体にとっての効果～

- 窓口を通して社会的養護施設職員の離職の原因を明確にすることができれば、離職を防ぐための新たな打ち手を見出すことができる。

29 社会福祉法人 扶助者聖母会

所在地 ▶ 東京都北区赤羽台4-2-14 URL ▶ <https://www.seibi-home.jp/>

つながりプロジェクト



実施期間

令和2年10月1日～令和5年3月31日

助成額

令和2年度：1,836,000円
(備品等購入費、消耗品費、役員費、使用料・賃借料)

事業概要

- 施設を退所した子どもたちに食材等を届けることで、退所後の以下における課題解消につなげる。届ける物は主に食材や日用品などニーズに合わせて支援していく。郵送ではなく、直接、顔を見ることができるよう、初年度は施設職員もしくは施設とつながりのあるボランティアが直接届けに行く。次年度以降は、引き続き、直接届けることも行いつつ、定期的に倉庫を開き、食材等の支援を通して来園してもらうことで、継続的なつながりを構築していく。
課題①連絡がとれなくなってしまう
課題②早婚・母子家庭が多い
課題③転職・アルバイトで生計を立てている
課題④自ら動けない
- 社会的養護者の生活困窮の救済
食材による物的支援、施設とのつながりによる人的支援により、退所者の孤立を防ぎ、生活の安定、意欲向上、支援団体、関係機関とのつながりをもてるような支援につなげる。
- 母子家庭支援による「負の連鎖」の断絶

食材の支給による生活の余裕、他者とのつながりを実感することによる精神的安定などにより、ゆとりをもった子どもの養育につながる。また施設と直接定期的につながっているため、何かあった場合の相談がしやすくなり、母子家庭や貧困による虐待の連鎖が解消されることが期待される。

成果目標・事業計画

【成果目標】

- 令和2年度：52名
(現在当施設から18歳以降で10年以内に退所した86名のうち、連絡先を把握できている52名を対象とする)
- 令和3年度：100名
- 令和4年度：150名
(2年目以降は、近隣の児童養護施設と協働し、1年目のノウハウを活かしながら、支援の幅を広げていく)
- 半年に1度、食材、日用品等を直接届け、毎回アンケートを取り、必要品の把握をすると共に満足度90%以上を目指す。



【事業計画】

- 令和2年9月～11月
退所者情報の整理、収集、支援団体に趣旨を説明、連携調整、近隣児童養護施設に趣旨を説明、協力依頼
- 令和2年12月～令和3年3月
配達対象人数の確定、食材調達、食材配達、アンケート集計
- 令和3年4月以降
倉庫準備、完成、倉庫の定期開放
近隣施設との情報共有会（月1回）、支援団体との情報共有会（不定期）、退所者リストの更新（年2回）

実施状況・成果

【実施状況】〈令和2年度実績〉

- 令和2年度：52名の退所者を対象に支援を実施
- 連携支援団体と提携
- 対象退所者の名簿作成及びLINEアプリによる退所した年毎の登録、グループ分けにより、事業内容を告知
- ホームページに「卒園生の方はこちら」欄を新設し、ホームページからでも受付が可能となった。
- 支援用の車両を購入
- アンケートを配布し、退所者の状況を把握

【成果】

- プロジェクト実施に向けて退所者の情報を整理し、生活状況なども確認することで、今後のアフターケアへの見通しができた。
- アンケートを実施したところ、満足度（支援に対して“良い”と回答）は、100%であり、退所者のニーズに合っているものと分かった。

課題と対応

- 支援物資は、基本的には寄付で賄っている。食品は寄付や支援団体とのつながりで確保しやすくなったが、退所者のニーズが多い日用品などは寄付数が少なく、行き渡らない。支援団体との情報共有などにより、幅広い寄付物品を集めていく。

～団体にとっての効果～

- 直接食品などの支援物資を届けることで退所者に会うことができるため、就労を含む生活状況を把握することができるなど、何かあった場合の相談にも乗りやすくなった。
- SNSでのやり取りも必要であるが、このプロジェクトを通して会える機会が増えたことで、より関係性を強化することができ、効果的な退所者支援につながっている。単発ではなく、定期的な訪問をすることで、孤立感の緩和などにつながり、物的支援だけでなく、人的支援の効果も実感している。
- マスコミにも取り上げてもらい、社会的養護に対する認知を広げることができた。

30 特定非営利活動法人 ライツオン・チルドレン

所在地 ▶ 東京都渋谷区桜丘町30-12 URL ▶ <https://lightson-children.com/>

児童福祉施設の職員に向けた ITセキュリティ、ITリテラシーの研修

社会的養護の職員のための ITセキュリティ / リテラシー研修

ITセキュリティ / リテラシーの「はじめの一歩」を、この研修で！



子どものスマホ利用が増えているけど、職員として気を付けなくちゃいけないことって？



あれ、アカウントが乗っ取られてる…？
子どもの情報は流出していないかな…？



職員同士のコミュニケーションにITツールを導入したいけど、職員のセキュリティ意識に不安が…。

実施期間

令和2年4月1日～令和5年3月31日

助成額

令和2年度：1,010,000円

(備品等購入費、報償費、消耗品費、役務費、委託費)

事業概要

- 児童の最大の利益のために、児童養護施設入所児童が生活の中でITに触れる機会を確保することを最終的な目的として、養育者である職員が必要なITセキュリティ対策、ITリテラシーを身につけるための研修を開発し、施設等に提供する。
- 社会的養護で養育者の役割を担う施設職員は学んだことを活かして、児童のIT利用の管理体制を点検・見直すとともに、入所児童にセキュリティ対策やリテラシーを伝えていくことが期待される。
- 具体的な事業内容は以下のとおり
 - 「児童福祉施設でITを活用するためのサイト」を開発し、コロナ禍やオンライン授業などに関係する事項を解説する記事を児童養護施設向けに掲載する。
 - 児童養護施設等の職員に向けて、一般的に事業者期待されているITセキュリティ対策と、家庭に期待されているITの安心・安全な利用のポイントを教示し、職員1人ひとりのIT活用を促し、セキュリティ能力を高めるための研修を作成する。
 - 研修講師として適任者を2名選定する。ITのバックグラウンドを持つ人を想定しているため、講師に

は事前に社会的養護に関する必要な研修などを行い、本事業の研修講師として養成する。

成果目標・事業計画

【成果目標】

- 研修を実施する回数
 - ・令和3年4月～令和4年12月：計25回
- 受講者への事後アンケート
 - ・受講者への事後アンケートで、「施設で職員のITセキュリティ対策やITリテラシーを向上するうえで、この研修は役立ったか」の質問に対し「とても役立った」「役立った」の回答が全体の60%以上、及び「施設で、児童のIT活用を広げたり、ITの濫用を防止したりするうえで、この研修は役立ったか」の項目に対し、「とても役立った」「どちらかというと役立った」の回答が全体の60%以上を目標とする。

【事業計画】

〈令和2年度〉

- 4月～8月：「児童福祉施設でITを活用するためのサイト」開設、研修内容の策定
- 9月以降：研修用の資料作り、研修講師の選定とトレーニング、児童福祉施設へ研修の案内を通知、申込受付

基本8項目～おさらい

- 1 OSやソフトウェアは常に [] にしよう
- 2 [] を導入しよう
- 3 [] を強化しよう
- 4 [] 設定を見直そう
- 5 脅威や攻撃の**手口**を知ろう
- 6 常に [] を取ろう
- 7 [] にもセキュリティホールがあることを知ろう
- 8 困ったら各種窓口ですぐ**相談**しよう

おわりに

- まずは、大人が正しく理解しよう
 - 敬遠せず使いこなすことで、より仕事が円滑に、ラクに
- そして、子どもたちに還元
 - 「ICT当然」の時代 → 一般家庭児と同等なスタートラインに
- 正解は、一緒に考えていけばいい
 - 取り組む中で困りごと → 職員全体、職員と子どもで考える

参加頂き、ありがとうございました。

〈令和3年度〉

- 4月以降：研修を開始

〈令和4年度〉

- 1月以降：報告イベントの開催、報告書の取りまとめ

実施状況・成果

【実施状況】〈令和2年度実績〉

- サイトの開設

「児童福祉施設でITを活用するためのサイト」を開発し、施設でのIT利用に関する記事を児童福祉施設向けに掲載した。
- 研修講師の選定とトレーニング

研修講師として適任者2名を選定し、社会的養護に関する必要な研修などを行った。母子生活支援施設からの問い合わせや応募が複数あったため、講師やスタッフに向けて、母子生活支援施設に関する研修を令和3年度に行う予定。
- 研修内容の作成

研修は、管理職やIT担当者向けの「組織の情報セキュリティ編」、一般職員向けの「ユーザーの安心・安全編」の2コースを用意した。内閣サイバーセキュリティセンターのハンドブックをベースに研修を開発した上で、社会的養護の施設長や職員など5名にレビューを依頼し講評を取り入れた。
- 参加施設の募集開始

施設側のニーズを確認した上で、施設ごとの開催を行うこととした。また、施設規模を考慮して自立援助ホームでの実施を見送り、まずは児童養護施設と母子生活支援施設を対象とし、令和3年2月より、東京都社会福祉協議会の協力を得て、申込の受付を開始した。

【成果】

- 本事業をきっかけに大学講師が新たなメンバーとして加わった。
- 2020年春の一斉休校と緊急事態宣言の際、都内の

複数の施設から、「児童福祉施設でITを活用するためのサイト」を参考にしているという声が寄せられた。

- 「組織の情報セキュリティ編」、「ユーザーの安心・安全編」の2コース、それぞれ70ページ程度のスライドを作成した。
- 本研修の申込受付を2月に開始したところ、6施設から問い合わせがあった。

課題と対応

- 社会的養護の施設職員や児童のIT利用に関する体系的な取り組みは前例がほとんどなく、ある程度は手探りで進めていかざるを得ない部分がある。まずは一般的なセキュリティ/リテラシー概論を提供しながら、徐々に施設側のニーズを取り入れて改善していくこととする。
- 施設ごとに受講の形式が異なるとみられる（例えば受講者が同じ部屋に集まっているかどうか、受講者が1人1台のパソコン等を持っていてビデオ会議に接続できるかどうか、施設側のインターネット回線の性能など）。申込した施設には事前聴き取りを実施して、受講の人数や形式を詳しく把握し、当日の進行がスムーズにいくように努める。

～団体にとっての効果～

- 子ども、施設（養育者）、IT/ICTの3者の関わりについて、メンバーの間でより具体的な議論をし、ビジョンを模索するようになった。
- これまで、児童福祉施設の子どもの対象にパソコン講習会を開催してきたが、当該助成で、職員向けの研修を行うことで、児童福祉施設の職員や業務体制（子どもの養育環境）にもより目を向けるようになってきた。

31 特定非営利活動法人 フードバンク TAMA



所在地 ▶ 東京都八王子市元横山町2丁目6番23-605号 URL ▶ <http://foodbank-tama.com/>

新型コロナウイルス対策のフードパントリー事業



実施期間

令和2年10月1日～令和5年3月31日

助成額

令和2年度：220,000円
(ホームページ開設費、委託費)

事業概要

○新型コロナウイルス感染症の影響により、生活困窮世帯が増加傾向にある。そのための有効な取り組みとしてのフードパントリー事業を、日野市のフードパントリー事業の経験を生かして各市のフードバンク団体と連携しつつ更に発展させることで、八王子市、立川市、昭島市、府中市等の生活困窮世帯への食料支援を行う。

○事業内容は以下のとおり。

①八王子市での取り組み

ひとり親25世帯へ毎月個別食料支援を行う。また、八王子市子どものしあわせ課と連携し、市内各所の子ども家庭支援センターに来所するひとり親家庭への食料支援を行う。市内子ども食堂への食料支援も行う。

②立川市、昭島市、府中市等のフードバンク団体等への後方支援

立川市、昭島市、府中市等のフードバンク団体等が推進するフードパントリー事業を、当フードバンクが後方支援することで、多摩西部における主

にひとり親困窮世帯の食のセーフティネットを構築する。

成果目標・事業計画

【成果目標】

○パントリー支援頻度（月当たり）・支援件数（年間）・支援人数（年間）

令和2年度：支援頻度月1回・支援件数330件
支援人数660人

令和3年度：支援頻度月1回・支援件数660件
支援人数1,320人

令和4年度：支援頻度月1回・支援件数660件
支援人数1,320人

【事業計画】

○令和2年度

●備品・消耗品・食品購入（令和2年10月～12月）

●毎月1回、ひとり親生活困窮家庭等への個別配布を実施

○令和3年度、令和4年度

●毎月1回、ひとり親生活困窮家庭等への個別配布を実施

実施状況・成果

【実施状況】〈令和2年度実績〉

○ひとり親生活困窮家庭等への個別配布

(令和2年10～令和3年3月)

●八王子市子どもしあわせ課との連携

八王子市子育て世帯食品提供事業として、市内2箇所の子ども食堂にて毎月1回食料支援を行った。(140世帯/月、延べ980世帯、食品提供重量合計3,920キロ)

●八王子市自立支援課との連携

生活困窮者への緊急食品支援事業として、市内の児童福祉施設に入所している25世帯のひとり親家庭に対し毎月複数回食料支援を行った。(延べ175世帯、食品重量は1,400キロ) 夏休みには果物、冬休みにはクリスマスケーキを提供した。

●市内3箇所の子ども家庭支援センターを通じ、子育て中の45世帯に対し食料支援を行った。(延べ315世帯、食品重量は945キロ)

●市内の児童福祉施設4箇所、子ども食堂8箇所に対し、毎月食料支援を行った。(食品重量は336キロ)

【成果】

○アンケートおよび聴き取り調査を行い、以下の内容を把握できた。

●八王子市子どもしあわせ課と連携した八王子市子育て世帯食品提供事業では、新型コロナウイルス感染症の影響と思われるが、月を追って利用者が増加し、受益者の評価が極めて高かった。

●八王子市自立支援課と連携した生活困窮者への緊急食品支援事業では、コロナ禍の影響を特にダイレクトに受けたため、食支援が母子ともに高評価だった。夏休みの果物、冬休みのクリスマスケーキの提供についてはお子さん方から喜びの声をいただいた。

●市内3箇所の子ども家庭支援センターを通じた子育て世帯への食料支援は育児相談を兼ねた支援だったため、センターから相乗効果を発揮できたとの反響をいただいた。

●八王子市内の児童福祉施設4箇所、子ども食堂8箇所への食料支援では、野菜なども配布したため助かったとの声をいただいた。

課題と対応

八王子市は、人口も多く(57万人)、エリアが広いため、食品の配送については、ボランティアスタッフ



フードバンクTAMA 会報

2021.1.31
No. 8

特定非営利活動法人フードバンクTAMA
〒191-0062 日野市多摩平 2-12-4
TEL:080-6814-3657
Email: foodbank.tama@gmail.com
URL: http://www.foodbank-tama.com

食を必要とする "1人"のために

コロナに明け暮れたこの一年

新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされたこの1年、不安な日々を過ごしてこられたご家庭が大半ではないでしょうか。当フードバンクもコロナにより活動が大きく変化した1年でもありました。

4月以降、ステイホームの影響で食品が売れなくなり、行き場を失った食品を食品会社から大量に提供いただきました。ただし、5月以降はその反動として減産傾向となり、当フードバンクは新たな食品企業への寄附依頼を行うことで不足を補った食料を確保しました。また、従来は様々な困難によるフードドライブの実施でマラミタあふれる食品を常備していただいていたが、今年はフードドライブの実施がコロナ禍で激減したため、そのキャンセルが相次いでしまいました。しかし、反動に個人からの食品寄付が増加し、毎日のように豊田倉庫に届くようになりました。

5月以降、活動休止をする子ども食堂が増えましたが、ひとり親家庭へ向けた食料提供活動に切り替える食堂が増えて行ったように思います。何かしたいという熱意を感じ、当フードバンクもそうした子ども食堂へバックアップをするようになりました。一方、昨年11月から開始した日野市フードバンク事業は、4月以降急激に増加し、昨年3月末には1,000件に達する見込みです。

八王子市においても、福祉担当窓口や子ども家庭支援センターと連携し、ひとり親家庭や生活困窮世帯へのフードバンク事業を本年10月より展開しており、これも大活躍です。

資金面では、新型コロナ対策として東京都や諸団体による助成金制度が設けられたことで、赤い羽根募金、カラスシヤパン、また、Jcopinなど、これまでには補助金を受けることができました。深く感謝いたします。

こうした中、当フードバンクの活動も大きく変化。入荷・配布する食品量が従来は3月30日程度であったものが倍以上になりました。取り扱う量が膨らんだため、活動日もほぼ毎日になってしまいました。

また、9月には、従来の大塚倉庫ではこのコロナ禍で出入荷量が対応しきれなくなったこともあり、より広くアクセスの良い豊田倉庫近くの倉庫に移転しました。

その他、2020年に化したことを以下列挙したいと思います。

- ① 毎月の理事会のオンライン開催
- ② 毎年開催していたシンポジウム開催の見送り
- ③ Webサイトのリニューアル
- ④ 児童福祉施設・子ども食堂へのアンケート実施
- ⑤ フードバンクリーダー研修受給者へのアンケート実施

これからも元気にっぱい続けます！

今日の日本の子供の貧困という問題、しかも相対的貧困率16.1%（各人に1人が貧困）という実態を知ったのは、今から3年前の日野市開催のシンポジウムとフードバンクTAMAの第2回シンポジウムでの参加でした。これが契機か、と衝撃を受け、「そうせよ」と言葉が出たことを思い出します。そこでフードバンクの活動（まだ食べられるのに様々な理由で処分されてしまう食品、食べ物に困っている施設や個人に届ける活動）を知り、私にできる事として貢献はありますが、フードバンクTAMAのお手伝いをするにいたしました。

巷にはたくさん美味しい食品があり、豊かな食を愛する幸せがある一方で、十分な食事が取れない子供やその保護者の境遇を知り、とても心が痛み、何とかならないものかと思ひ、また、食料支援を持っている子供たちを想い、今更以上にアンテナを張り、3年間お手伝いを続けています。お手伝いの内容は、食料の集荷や配達（供給）などの現場作業だけの「小さな貢献」です。いつやる?今でしょ!（即実行）を合言葉に、ボランティア登録をされていた複数のメンバー（チームS）で集荷・配達を行っています。

食料配達は、マイカーでの配達につきものの燃費の問題、配達先探索のナビゲートなどの心配もなく、効率よく出来、事務局からの電話一本の依頼で即対応するようにしています。

複数のメンバーでやることで、メンバー間の思いや気付きをぶつけながら、時空間を共有しながら、モチベーションを保ちながら気持ちよく活動をしています。

今年も新型コロナウイルス感染症の問題もあり、フードバンクリーダーや大学生への食料支援を含め、生活困窮者の支援が広がります。食料配達の増加に伴うコロナ業務の増加も続いています。現状の運営を継続するにはメンバーが心配であり、チームSの「小さな貢献」を止めるわけにはいきませんが、フードバンクTAMAのモットー「食を必要とする一人のために」をこの先も大切に続けていきます。

先崎 益明（ボランティア：日野市在住）

も比較的少数であり、幾分負荷がかかっている傾向がある。また、市内の子ども食堂数は、多摩地域では突出して多い(約20箇所)ため、ニーズに応えきれないと思われる。児童福祉施設に関しては、当フードバンク設立当初から食支援活動を行ってきたため、特段の問題はない。今後の対応としては、スタッフの増強と更なる行政との連携を深めることがポイントであり、子ども食堂への食提供も集荷食品量が増大化してきたため、要望に応えられる見込みが立ってきた。

～団体にとっての効果～

- これまで八王子市では、当法人によるひとり親家庭への支援が点と点の支援であったため、中々その意義が伝わらなかったが、広くその効果が認知されるようになった。

学齢期の子供

77

32 特定非営利活動法人 アスデッサン



所在地 ▶ 東京都千代田区内神田1-8-9 URL ▶ <https://www.asdessin.org/>

多様な大人との出会いの場をつくる オンラインのキャリア教育授業



実施期間

令和2年4月1日～令和5年3月31日

助成額

令和2年度：211,000円
(役務費、使用料・賃借料)

事業概要

- 子育てとは、子供が自立できるようになるまでサポートすることであり、当法人が取り組むオンラインのキャリア教育事業は、子供が目指す将来へたどり着く一助になるというかたちで、子育て支援に結びつく。
- 子供たちは、家庭や学校、塾など限られた機会しか大人とコミュニケーションを取る機会が無く、実際に活躍している社会人の姿を具体的にイメージすることが困難な状況にある。特に新型コロナウイルスの影響により、休校が続き、この課題は一層深刻なものになっている。
- 後悔の無い将来を決めるためには、どのような選択肢があるかを明確に把握することが必要である。当法人のオンラインキャリア教育事業は、社会人とのコミュニケーションを通して、子供たちに様々な選択肢があることに気付いてもらう。加えて、更にもう一步踏み込み、子供たちが目標の達成に至る道筋を決めるまで伴走することで、実行性のある取り組みとする。

○事業内容は以下のとおり。

●ミライドア

主に中高生を対象として、オンライン会議ツールを用いてface to faceでキャリアに関するオンライン授業を行う。

SNSやウェブページなどでミライドアに関する周知・募集を行い、希望する生徒たちとオンライン上で双方向型の授業を行う。社会人から進路選択や現在の仕事に至るまでのストーリー紹介をするとともに、子供たちとのフリートークを通して、進路選択やキャリア形成に関する不安を解消していく。子供一人に対して、社会人1～2人と話す少人数セッションを複数回実施する形式をとり、毎月2回（各回40人程度を想定）の頻度で授業を実施する。

●アスデッサンオンライン

主にミライドアに参加してもらった生徒を対象に、オンラインツールを用いたテキストベースのコミュニケーションを行う。

短時間のセッションでは、どうしても生徒たちの

ニーズを完璧に汲み取り解決していくことができないため、フォローアップとして何時でもどこでも好きな時に悩みや相談を投稿してもらい、社会人が対応していく。また、社会人からも生徒たちが必要とする情報を主体的に発信していき、生徒たちに新たな気付きをもたらす。

●ミライドア部

「目標を決めて行動する」をテーマに、社会人がメンターとなって中高生の目標達成を支援する。

ミライドアを通じて、実際に何か行動に移したいと思った中高生に対して、マンツーマンで支援を行い、部活の様に目標達成を目指す取り組み。ミライドアに参加した中高生から希望を募り、約1か月半にわたり個別のオンライン面談を行い、目標設定から成果発表までを行う。

成果目標・事業計画

【成果目標】

- 参加生徒 延べ1,000名
- 参加する社会人ボランティア講師 100名

〈令和2年度〉

- 参加生徒 延べ250名
- 参加する社会人ボランティア講師 25名

〈令和3年度〉

- 参加生徒 延べ400名
- 参加する社会人ボランティア講師 50名

〈令和4年度〉

- 参加生徒 延べ350名
- 参加する社会人ボランティア講師 25名

【事業計画】

- ミライドア
 - 開催場所：オンライン
 - 開催時期：10回／年（令和2年8月～12月）
2、3回／月（令和3年1月～12月）
 - 参加人数：中高生10～15人程度／回
 - 内容：社会人から進路選択や現在の仕事に至るまでのストーリーを紹介し、様々な選択肢があることを知ってもらう。1回10分ずつ、合計3～4人の社会人から話を聞く。

実施状況・成果

【実施状況】〈令和2年度実績〉

- ミライドア
 - 開催回数：計12回

- 参加人数：中高生延べ100名超

○アスデッサンオンライン

- 参加人数：中高生約30名
- チャットツールを使い、テキストベースで生徒と社会人がコミュニケーションできる仕組みを提供した。

○ミライドア部

- 参加人数：1期生2名、2期生2名がプログラムを修了
- 「目標を決めて行動する」をテーマに、自分の調べたいテーマを決める→調査・研究→発表資料作成→社会人に対して発表という約2カ月のプログラムを開催。

【成果】

- ミライドアに参加した生徒にアンケートをとったところ41名から回答があり、9割からまた参加したいとの回答があった。「社会には自分の知らない仕事があることが分かって視野が広がった」等、受講の結果前向きになったことが伺えるコメントが多く寄せられた。
- ミライドア部を修了した生徒から「自分の関心があることを勉強するのは楽しいということが分かった」等のコメントがあり、前向きな効果があったと考えられる。

課題と対応

- アスデッサンオンラインでは一部の生徒から質問があり、それに対して社会人が答える等活発なやりとりがなされた。ただし常に活発なコミュニケーションが行われているとは言い難い状況で、来年度に向けてサービスの抜本的な見直しを検討中である。

～団体にとっての効果～

- オンラインでの授業は、団体にとっても初めての試みであったが、大きな成果を上げることができ、自信になった。オンラインで開催することで、講師として参加する社会人ボランティアの人も関わりやすくなり、結果として支援いただける人の数が増えた。

33 特定非営利活動法人 プラネットカナル

所在地 ▶ 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-24-14 URL ▶ <https://planetcanal.org/sudachi.html>

児童養護施設巣立ち応援 引取体制強化



実施期間

令和2年11月1日～令和5年3月31日

助成額

令和2年度：3,335,000円
(備品等購入費、消耗品費、印刷製本費、役務費、使用料・賃借料)

事業概要

- 一人暮らし用の家電家具を贈り届けることによって、児童養護施設を巣立つ若者が自立にかかる一時的なお金と時間の負担を減らし、学業や就活など本来の自立に集中できるようにするとともに、施設を巣立った後の日々の生活の基盤を手に入れられるようにする。そのちょっとした経済的ゆとりと心のゆとりが自立の後押しになることを期待し、「児童養護施設巣立ち応援 引取保管・配送の体制強化」を実施する。
- 主な活動は以下のとおり
 - 安全性の高い車両による運転ボランティア体制の強化
 - ・引取保管・配送に使用する「安全装備と保険が充実した車両を購入」する。
 - ・ボランティアのための「車の安全運転 手順チェックリスト」を作成し、徹底する。
 - 寄贈者の視点からの引取
 - ・屋根がある車両の導入により「天候やレンタカー予約に左右されない引取保管・配送」を実現し、寄贈者の引越し予定等に配慮した引取体制を強化

する。

- 新たな引取保管体制強化による寄贈者にとってのメリットやボランティア安全性強化についてチラシを配布し、寄贈者紹介やボランティアの応募につなげる。

成果目標・事業計画

【成果目標】

- 寄贈受付・引取保管や配送の手順をマニュアルやチェックリストによって、属人性を排した引取保管・配送ボランティア体制を確立する。
- 安定的に寄贈を受け、一人暮らし用の家電家具を必要としている児童養護施設を巣立つ若者の自立を持続的に応援することを目指す。

【事業計画】

- 令和2年11月：新しいチラシの作成、印刷
- 令和2年11月：
安全装備が充実した車両を購入し任意保険強化
- 令和2年11月以降：
 - ・各種手順チェックリスト作成徹底、見直し修正
 - ・ボランティア向け「車の安全運転」「引取保管・配送ボランティア募集」

一緒に応援しませんか？



特定非営利活動法人
プラネットカナル

事務所 〒180-0002
武蔵野市吉祥寺東町1-24-14

児童養護施設からの巣立ち

私達は、児童養護施設を18歳で巣立つ若者達に、寄贈された家電・家具を届けることを主な活動にしているNPOです。
2021年は、支援している17施設の54名に届けることが出来ました。

会員募集！

(会員になっていただけるだけで大きな支援です！)

- ・会費や寄付を通じて 支援する気持ちをあらわしたい。
- ・一緒に時間を使って作業し貢献したい。
- ・自分の経験やノウハウを活かしたい。
- ・一度、気楽にボランティアに参加してみたい。
- ・忙しい毎日だけど、出来る範囲で貢献したい。

誰でも気軽に、自分の価値観とライフスタイルにあった形や頻度・関与度で自分流に参加でき、無理なく長く続けられるような場を作っていきます。

※詳しくは裏面を御覧ください。



寄贈品募集！

小さなアパートや寮でのひとり暮らしです。大きすぎないモノをお願いします。

1. 家電 (最も人気) 製造後10年未満
 - ・冷蔵庫(2ドア・高さ 130cm未満)
 - ・洗濯機(縦型・乾燥機能なし)
 - ・電子レンジ (含オープンレンジ)
 - ・テレビ (40インチまで、BCASカードとリモコン付)
 - ・炊飯器(内釜備なし、5.5合まで)
 - ・掃除機 (吸引力が十分あるもの)
2. その他の家電 製造後10年未満
 - ・電気ケトル
 - ・DVD録画再生機
 - ・ドライヤー
 - ・アイロン
 - ・小型加湿器
3. 小型家具
 - ・プラスチック/木製チェスト
 - ・小型テレビ台
 - ・座卓(脚折畳可)
 - ・折畳みリクライニング座椅子
4. ノートパソコン
 - Windows10以降 / MacBook Mac OS X 10.6以降
5. 使用感の少ない調理具
 - ・フライパン
 - ・鍋
 - ・包丁
 - ・まな板
 - ・一人暮らし向けの食器・台所用用品
6. 日用品
 - ・目覚まし時計
 - ・掛け時計
 - ・未使用のタオルケットやタオル

- ◎処分費用も運搬費用もかかりません！
- ◎ご相談の上、会員が引き取りに伺います。
- ◎あなたの社会貢献をお手伝いします。

寄贈用【申込・問合せ・相談 窓口】
planetcanal.donate@gmail.com



寄贈用メルアド

※経済性の観点から、同じ方面をまとめて引取りに伺います。日程に余裕をもってお申し出くださいようお願いいたします。

プラネットカナルの主な活動

児童養護施設の子供たちは、18歳になると基本的に施設を出て独り立ちすることになります。いざというときに頼れる親や家庭がない子どもたちにとって、巣立ちはどんなに不安なことでしょう。公的支援金が支給されますが、ワンルームのアパートに引越せば、支払いがほとんどなくなってしまうのです。

一方で、引越などの生活の変化により手放される家電家具があります。またじゅうふんに使え

るのに、荷造りや配送料もかかる、活かし方もわからないので、手取り早く廃棄したりしてしまいます。

プラネットカナルは、これら手放される家電家具の寄贈と寄贈者の思いを受け、児童養護施設の18歳になった若者たちに届ける仕組みを作りました。彼女らとの、不安いっばいの顔が微笑みに変わる瞬間をイメージしながらの活動、それが「SUDACHI (巣立ち) プロジェクト」です。

月に一度、2-3時間から！

多種多様な貢献方法！



【仲間募集中】

- ◎無理なく可能な範囲で、次のどれでも参加できます。
- ◎寄贈品保管場所での整理・採寸・登録・クリーニングなど (月別ボランティア日：第1日曜/15日か前後の平日)
- ◎寄贈品募集や引取 (随時)
- ◎運営支援：事務所やテレワーク (随時)
- ◎贈呈：保管場所での贈呈品チェック・配送準備など (1月~2月)
- ◎会費
 - ・年会費 個人3,000円 (含ボランティア保険料) 団体・法人10,000円
 - ・学生、障がい者、児童養護施設出身者 会費免除

会員募集 問合せ先
planetcanal.contact@gmail.com (QRコードあり)



会員募集メルアド

- ・寄贈者や会員向け「寄贈者の視点からの引取保管」
- ・引取保管 (月平均3回程度)、配送 (年30回程度)、チラシ配布

実施状況・成果

【実施状況】〈令和2年度実績〉

- 安全な引き取り活動の体制強化
 - ・令和2年11月：納車、引取活動を開始、引取活動ボランティアの拡充にむけて試し運転を実施、安全な引取活動マニュアルを作成
 - ・令和3年1月：冬用タイヤ購入
- 活動の広報
 - ・活動周知のためチラシの作成、印刷
 - ・コープみらい広報誌に寄稿、ボランティアセンター・武蔵野のVCM通信にチラシを挟み込み
- 贈呈式に向けた取組
 - ・令和2年12月：寄贈品の贈呈先確認・保管場所転換、贈呈式に向けた準備
 - ・令和3年2月：寄贈品の配送準備、児童養護施設において贈呈式開催

【成果】

- 都内33軒を訪問し、寄贈品の引取を実施した。
- 寄贈者の都合に配慮した引取が効率的に行えるようになったほか、贈呈準備のための寄贈品の保管場所移動の効率も向上した。

課題と対応

- 広域でチラシを配布したことで多数の寄贈申出があり、引取日程の調整が難航することもあった。引取活動に参加できるボランティアの人数をさらに増やしていくことが必要。そのため、安全な車両を活用していること、わかりやすい手順に沿った活動であることをアピールしてボランティアを募っていく。
- 遠方からの寄贈申出をお断りせざるを得ないこともあるため、将来的に、他地域で同じ活動を行おうとする団体にノウハウを展開していくことも考えていきたい。

～団体にとっての効果～

- 今まではお借りしたトラックやレンタカーを使った引取を行っていたが、専用車両の導入によって日程調整しやすくなったことで、今まで以上に寄贈者とボランティアの両方の都合に配慮した効率的な活動が行えるようになった。
- チラシでの周知活動によって寄贈の申出が増えたため、申出受付から引取日程の調整までの作業をシステム化し手順を明確化する取組にも着手できた。法人の活動全体の効率向上にも繋がっている。